

日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS

リリース・ノート

2012 年 6 月

本書では、日本語 DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS の制限事項、使用方法に関するヒント、その他有用な情報について説明します。

ソフトウェア・バージョン: 日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS,
V2.7

オペレーティング・システム: 日本語 OpenVMS Integrity V8.3, V8.3-1H1, V8.4
日本語 OpenVMS Alpha V7.3-2, V8.3, V8.4

日本ヒューレット・パカード株式会社

2012 年 6 月

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており，本書中の解説および図，表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに，その全体または一部を，いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また，本書に記載されている事項は，予告なく変更されることがありますので，あらかじめご承知おきください。万一，本書の記述に誤りがあった場合でも，日本ヒューレット・パカードは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は，所定のライセンス契約が締結された場合に限り，その使用あるいは複製が許可されます。

© 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft および Windows は米国 Microsoft 社の商標です。

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は，各社の商標または登録商標です。

本書は，日本語 VAX DOCUMENT V 2.1を用いて作成しています。

目次

まえがき	vii
1 英語版 DCPS と日本語 DCPS との対応	
2 日本語 DCPS V2.7 について	
2.1 新しいプリンタのサポート	2-1
2.2 日本語 DCPS V2.7 で修正された問題点	2-1
2.3 日本語 DCPS V2.7 に含まれない機能	2-1
2.4 対応ソフトウェア	2-2
2.5 日本語ドキュメント	2-2
3 DCPS V 2.7-A について	
3.1 DCPS V2.7-A における修正点	3-1
3.1.1 DCPS V2.7 のインストレーションの問題の修正	3-1
3.2 DCPS Version 2.7 における機能拡張	3-2
3.2.1 新しいプリンタのサポート	3-2
3.2.2 USB プリンティングのサポート	3-3
3.2.2.1 USB ソフトウェアの要件	3-4
3.2.2.2 USB のトラブルシューティング	3-4
3.2.3 プリンタの同期化のための論理名の削除	3-5
3.3 DCPS V2.7 で修正された問題点	3-6
3.3.1 ホチキス留めジョブに関する問題	3-6
3.3.1.1 LPD キュー	3-6
3.3.1.2 Xerox WorkCenter Pro プリンタ	3-6
3.3.1.3 HP Color LaserJet 9500 MFP プリンタ	3-6
3.3.2 HP LaserJet P2015 の両面印刷に関する問題	3-7
3.3.3 Xerox Phaser 4500 でのいくつかのジョブが失敗する問題	3-7
3.3.4 ANSI LPD 出力が間違った紙サイズでフォーマットされる問題	3-7
3.3.5 PostScript Level 1 プリンタに対するジョブが失敗する問題	3-8
3.3.6 HP LaserJet 9055 および 9065 MFP の出力トレイの選択が失敗する問題	3-9
3.3.7 CD からのインストールが失敗する問題	3-9
3.3.8 LPD バナーページ上に情報が表示されない問題	3-10

4 プリンタ固有の情報

4.1	LPD 印刷時のトレイに関する制限事項	4-1
4.2	HP プリンタ	4-1
4.3	Xerox プリンタ	4-2
4.4	プリンタのファームウェア	4-2
4.4.1	プリンタのサービス・エラー	4-2
4.4.2	キューの起動に関する問題	4-3

5 日本語 DCPS の使用上の注意事項および制限事項

5.1	HP LaserJet プリンタにおける日本語ファイルの出力に関する注意事項	5-1
5.1.1	LaserJet プリンタでの日本語出力に関する制限事項	5-1
5.2	A4 用紙にランドスケープ・モードで印刷する場合	5-1
5.3	半角英数字フォント	5-2
5.4	テキスト・トランスレータ	5-2
5.4.1	フォーム定義に関する注意事項	5-2
5.4.2	複数ファイルの印刷に関する注意事項	5-3
5.4.3	LN82R での外字と斜体 (イタリック) 属性が混在すれ際の注意事項	5-3
5.4.4	テキスト・トランスレータの性能	5-3
5.4.5	テキスト・トランスレータの外字と内蔵フォント	5-3
5.4.6	罫線文字に関する注意事項	5-3
5.4.7	SIXEL と文字の重ね合わせに関する注意事項	5-4
5.4.8	テキスト・トランスレータのプロローグ処理に関する注意事項	5-4
5.4.9	PostScript フォント UniqueID	5-5
5.4.10	半角ローマ字フォントの制限	5-5
5.4.11	SETUP モジュールでの印刷に関する注意事項	5-5
5.4.12	DECVPFS とマージン	5-5
5.4.13	DECVERP , DECShORP のパラメータ Ps=0	5-6
5.4.14	A4 ページ・サイズでの文字ピッチに関する注意事項	5-6
5.4.15	SS2 と SS3 に関する注意事項	5-6
5.4.16	SUB に関する注意事項	5-6
5.4.17	DEC DUTCH と DEC FRENCH に関する注意事項	5-6
5.4.18	PLD と PLU に関する注意事項	5-6
5.4.19	垂直タブに関する注意事項	5-7
5.4.20	DECVERP と垂直タブ位置に関する注意事項	5-7
5.4.21	DECdHLT と DECdWL の組み合わせに関する注意事項	5-7
5.4.22	DECSTBM と DECVERP に関する注意事項	5-7
5.4.23	SHS と DECShORP または GSM と DECShORP を組み合わせた場合 の注意事項	5-7
5.4.24	JFY に関する注意事項	5-7
5.4.25	DECVERP と DECslPP に関する注意事項	5-8
5.4.26	DECVERP による縦倍角のクリア	5-8
5.4.27	ファイルの先頭が改ページまたは改行と改ページの場合の注意事項	5-8
5.4.28	DEClaser2400 (漢字 LN10) との違い	5-8
5.4.29	文字属性に関する注意事項	5-8
5.5	日本語版 DCPS に関するその他の情報	5-8
5.5.1	カラー・セパレータ・ページと日本語 PrintServer 17/600 給紙トレイ切 り替えの相互作用	5-9

6 DCPS の制限事項

6.1	OpenVMS V8.2 およびそれ以降のバージョンにおける AppleTalk	6-1
6.2	自動検出機能付きプリンタを使用する場合の注意事項.....	6-2
6.3	Raw TCP/IP キューでのジョブの "Starting"状態	6-2
6.4	Raw TCP/IP キューの接続の切断	6-2
6.5	使用不能な Raw TCP/IP プリンタについての NOT_READY 警告メッセージ.....	6-3
6.6	カラー PostScript を生成できないトランスレータ	6-4
6.7	PostScript Level 2 プリンタでのジョブのトレーラ・ページのシフト排紙.....	6-4
6.8	特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可	6-4
6.9	ホストにステータス・メッセージを送信しないいくつかのプリンタ.....	6-5
6.10	プリンタ名の出力に関する問題	6-5
6.11	DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services を必要とする DDIF 出力	6-5
6.12	NUMBER_UP および PostScript ドライバの互換性	6-6
6.13	PAGE_SIZE パラメータを無視する LIST トランスレータ	6-6
6.14	挿入された PJI コマンドの無視, バイナリ・モードは避けるべきこと.....	6-6
6.15	接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP /QUEUE /RESET の使用回避.....	6-6
6.16	DELETE /ENTRY でのジョブのトレーラ・ページの出力	6-7
6.17	/COPIES を指定した出力時の PostScript ファイルの問題	6-7
6.18	/JOB_COUNT を指定した場合の PAGE_LIMIT 使用の問題	6-7
6.19	I/O バッファ設定が小さすぎる場合の OPCOM エラー発生の可能性	6-8

7 DCPS に影響を与えるその他の制限事項

7.1	時刻変更後の DCPS プロセスによる CPU 時間の消費	7-1
7.2	キューの起動による無効なデバイス名のエラー.....	7-2
7.3	マルチストリーム・シンピオントでのキュー起動の問題	7-2
7.4	シリアル接続プリンタの I/O エラー	7-3
7.5	アクセス違反あるいは不正パラメータ・エラーによるシンピオントの強制終了.....	7-4

A Raw TCP/IP ポート番号

B LPD キューに指定するプリンタ製品名

表

1	日本語 DECprint Supervisor のドキュメント	viii
3-1	USB パッチキット (必要条件) と OpenVMS アップデート・キット	3-2
3-2	USB パッチキット	3-4
4-1	ファームウェアによるサービスエラーの修正	4-2
4-2	推奨される最小ファームウェア・バージョン	4-3
A-1	raw TCP/IP ポート番号	A-1

本書の対象読者

このドキュメントでは、本バージョンの日本語 DECprint Supervisor (DCPS) における新機能、問題点の修正、使用上のヒント、制限事項、およびその他の情報について説明します。このドキュメントは、DCPS をインストールするシステム管理者、および実際に使用する一般ユーザを対象としています。

本書の構成

本書の構成は以下のとおりです。

- 第 1 章、DCPS の英語版と日本語版の関係について説明しています。
- 第 2 章、日本語版 DCPS V2.7 の新機能および変更点について説明しています。
- 第 3 章、英語版 DCPS V2.7-A における変更点について説明しています。
- 第 4 章、DCPS で特定のプリンタを使用する場合の注意事項について説明します。
- 第 5 章、日本語 DCPS V2.7 の制限事項について説明します。
- 第 6 章、英語版 DCPS V2.7-A の制限事項について説明します。
- 第 7 章、DCPS に影響を与えることが判明している OpenVMS オペレーティング・システムの問題について説明します。
- 付録 A、IP プリンタを設定する際に使用されるポート番号を示します。
- 付録 B、LPD キューに指定するプリンタ製品名について説明します。

関連資料

DCPS については次のドキュメントを参照してください。

表 1 日本語 DECprint Supervisor のドキュメント

『リリース・ノート』	DCPS の使用上の注意事項について説明しています。
『インストール・ガイド』	DCPS のインストール方法について説明しています。
『システム管理者ガイド』	システム管理者、データセンタ・オペレータ、アプリケーション・プログラマが、DCPS プリント・キューをどのように作成/管理し、印刷に関する問題を解決するかを説明します。
『ユーザーズ・ガイド』	DCPS を使用して PostScript プリンタに印刷する方法について説明しています。
『ソフトウェア仕様書 (SPD 48.27.xx)』	DCPS がサポートするプリンタの一覧、DCPS V2.7 の機能と動作環境について説明しています。

HP OpenVMS の製品およびサービス情報については、下記の URL の Web サイトを参照してください。

<https://www.hpe.com/jp/openvms> (日本語)

<https://www.hpe.com/info/openvms> (英語)

本書の表記法

このドキュメントでは以下の表記法を使用します。

表記法	意味
Ctrl/x	Ctrl/x という表記は、Ctrl キーを押しながら別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
Return	例の中で、キー名が四角で囲まれている場合には、キーボード上でそのキーを押すことを示します。テキストの中では、キー名は四角で囲まれていません。 HTML 形式のドキュメントでは、キー名は四角ではなく、括弧で囲まれています。
...	例の中の水平方向の反復記号は、次のいずれかを示します。 - 文中のオプションの引数が省略されている。 - 前出の 1 つまたは複数の項目を繰り返すことができる。 - パラメータや値などの情報をさらに入力できる。
.	垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中の項目が省略されていることを示します。このように項目が省略されるのは、その項目が説明している内容にとって重要ではないからです。
()	コマンドの形式の説明において、括弧は、複数のオプションを選択した場合に、選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示しています。
[]	コマンドの形式の説明において、大括弧で囲まれた要素は任意のオプションです。オプションをすべて選択しても、いずれか 1 つを選択しても、あるいは 1 つも選択しなくても構いません。ただし、OpenVMS ファイル指定のディレクトリ名の構文や、割り当て文の部分文字列指定の構文の中では、大括弧に囲まれた要素は省略できません。

表記法	意味
[]	コマンド形式の説明では、括弧内の要素を分けている垂直棒線はオプションを 1 つまたは複数選択するか、または何も選択しないことを意味します。
{ }	コマンドの形式の説明において、中括弧で囲まれた要素は必須オプションです。いずれか 1 のオプションを指定しなければなりません。
太字	太字のテキストは、新しい用語、引数、属性、条件を示しています。
<i>italic text</i>	イタリック体のテキストは、重要な情報を示します。また、システム・メッセージ (たとえば内部エラー <i>number</i>)、コマンド・ライン (たとえば <i>/PRODUCER=name</i>)、コマンド・パラメータ (たとえば <i>device-name</i>) などの変数を示す場合にも使用されます。
UPPERCASE TEXT	英大文字のテキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、ファイル保護コード名、システム特権の短縮形を示します。
Monospace type	モノスペース・タイプの文字は、コード例および会話型の画面表示を示します。 C プログラミング言語では、テキスト中のモノスペース・タイプの文字は、キーワード、別々にコンパイルされた外部関数およびファイルの名前、構文の要約、または例に示される変数または識別子への参照などを示します。
—	コマンド形式の記述の最後、コマンド・ライン、コード・ラインにおいて、ハイフンは、要求に対する引数とその後の行に続くことを示します。
数字	特に明記しない限り、本文中の数字はすべて 10 進数です。10 進数以外 (2 進数、8 進数、16 進数) は、その旨を明記してあります。

英語版 DCPS と日本語 DCPS との対応

日本語 DECprint Supervisor (DCPS) V2.7 for OpenVMS は、英語版 DECprint Supervisor V2.7-A for OpenVMS を日本語用に拡張した製品です。本製品によって、さまざまな日本語 PostScript プリンタがサポートされます。

なお、英語版 DECprint Supervisor V2.7-A は、日本では販売されていないプリンタ製品もサポートしています。日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ではそれらのプリンタをサポートするための機能を削除してはいませんが、それらの機能に対する弊社からのサポートは受けられません。また、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS には、HP PCL トランスレータなど、日本語に対応していないコンポーネントもそのまま含まれています。今後、サポートされるプリンタ製品および日本語機能が追加された場合には、その時点の『ソフトウェア仕様書』および『リリース・ノート』に記述します。

また、英語版の V2.7 で追加された USB 接続の機能は、日本語プリンタに対してはサポートされません。

日本語 DCPS V2.7 について

この章では、日本語 DCPS V2.7 で変更された機能について概要を説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳しく説明しています。

日本語 DCPS V2.7 は英語版 DCPS V2.7-A をもとに開発されており、英語版 V2.7-A の機能に加えて、日本語機能の拡張が行なわれています。

英語版 DCPS V2.7-A の機能変更については、第 3 章を参照してください。

2.1 新しいプリンタのサポート

日本語 DCPS V2.7 では、新たに次のプリンタがサポートされます。

- OKI COREFIDO B840dn
- OKI COREFIDO B431dn
- RICOH IPSiO SP 6330

2.2 日本語 DCPS V2.7 で修正された問題点

日本語 DCPS V2.7 で修正された日本語版固有の問題は以下のとおりです。

- JIS X 0208 1990 追加文字 (F4A5, F4A6 の 2 文字) が印刷されない。
- リコー製プリンタで、ランドスケープ印刷時に 1 枚目の用紙が上下逆に排出される。

上記の変更点の他、日本語 DCPS V2.7 には英語版の DCPS V2.7 および V2.7-A で追加された機能が含まれています。英語版で行なわれた修正点については第 3 章を参照してください。

2.3 日本語 DCPS V2.7 に含まれない機能

次の機能は、日本語 DCPS V2.7 では提供しません。

- セパレータ・ページへの日本語ファイル名の印刷
- パンチ機能のサポート

2.4 対応ソフトウェア

日本語 DCPS V2.7 は下記の OS バージョンに対応します。

- 日本語 OpenVMS Integrity V8.3, V8.3-1H1, V8.4
- 日本語 OpenVMS Alpha V7.3-2, V8.3, V8.4

日本語 PrintServer 構成で日本語 DCPS V2.7 を使用するには、日本語 PrintServer ソフトウェア V5.0 以降と次のいずれかのソフトウェアが必要です。

- HP DECnet for OpenVMS
- HP DECnet-Plus for OpenVMS
- HP TCP/IP Services for HP OpenVMS

TCP/IP 構成で日本語 DCPS V2.7 を使用するには、次の TCP/IP ソフトウェアが必要です。

- HP TCP/IP Services for HP OpenVMS

各ソフトウェアのサポート・バージョンについては次の表を参照してください。

OpenVMS	TCP/IP Services	DECnet	DECnet-Plus
Integrity V8.3	V5.6	V8.3	V8.3
Integrity V8.3-1H1	V5.6 ECO2	V8.3-1H1	V8.3-1H1
Integrity V8.4	V5.7	V8.4	V8.4
Alpha V7.3-2	V5.3/V5.4	V7.3-2	V7.3-2
Alpha V8.3	V5.6	V8.3	V8.3
Alpha V8.4	V5.7	V8.4	V8.4

2.5 日本語ドキュメント

日本語 DCPS V2.7 では以下のドキュメントを改訂しています。

- 『ソフトウェア仕様書』 (SPD)
- 『リリース・ノート』
- 『インストレーション・ガイド』
- 『ユーザーズ・ガイド』
- 『システム管理者ガイド』
- オンライン・ヘルプ

本リリースでは、以下のドキュメントについては改訂していません。前バージョンのものがそのままご利用いただけます。

- 『日本語トランスレータ・リファレンス・マニュアル』

DCPS V 2.7-A について

日本語 DCPS V2.7 は英語版 DCPS V2.7-A をベースに開発されています。この章では、英語版の DCPS V2.7-A および V2.7 における変更点について説明しています。これらの変更点のいくつかについては、本書の他の章でも説明しています。

注意

英語版 DCPS をご利用の場合で、英語版 DCPS V2.7 がリリースされた後 (すなわち 2009 年 5 月以降) に問題の解決のために個別の DCPS イメージを受け取っている場合、その DCPS イメージは保存しておき、英語版 DCPS V2.7-A をインストールした際には再度インストールしてください。

日本語 DCPS をご利用になる場合、このような対処は必要ありません。

3.1 DCPS V2.7-A における修正点

3.1.1 DCPS V2.7 のインストレーションの問題の修正

V2.7

DCPS V2.7 のインストレーション・プロシージャは、必要条件である表 3-1 に示す USB パッチキットがシステムにインストールされているかどうかを確認します。しかしインストレーション・プロシージャは、表 3-1 に示す OpenVMS のアップデート・キット内にそれらの USB パッチキットが含まれていることは認識できません。このため、これらのアップデート・キットがシステムにインストールされていても DCPS V2.7 のインストレーションが失敗します。

本バージョンではこの問題が修正されています。

注意

日本語 DCPS V2.7 は英語版 DCPS V2.7-A をベースに開発されているため、この問題は修正されています。

表 3-1 USB パッチキット (必要条件) と OpenVMS アップデート・キット

OpenVMS バージョン	必要な USB パッチキット	USB パッチキットを含む OpenVMS アップデート・キット
OpenVMS Alpha V8.3	VMS83A_USB-V0100	VMS83A_UPDATE-V1000 以上
OpenVMS Integrity V8.3	VMS83I_USB-V0200	VMS83I_UPDATE-V1000 以上
OpenVMS Integrity V8.3-1H1	VMS831H1I_USB-V0100	VMS831H1I_UPDATE-V0600 以上
OpenVMS Integrity V8.4 およ び OpenVMS Alpha V8.4	なし (USB パッチの内容は OpenVMS V8.4 に含まれ ている)	なし (USB パッチの内容は OpenVMS V8.4 に含まれ ている)

3.2 DCPS Version 2.7 における機能拡張

3.2.1 新しいプリンタのサポート

DCPS V2.7 では新たに以下のプリンタをサポートします。

注意

第 1 章で説明したとおり，日本語 DCPS ではこれらのプリンタはサポートしていません。

HP

CM8050 Color MFP¹
CM8050 Color MFP with Edgeline¹
CM8060 Color MFP¹
CM8060 Color MFP with Edgeline¹
Color LaserJet CM1312 MFP
Color LaserJet CM2320 MFP
Color LaserJet CM3530 MFP
Color LaserJet CM6030 MFP
Color LaserJet CM6040 MFP
Color LaserJet CP1513
Color LaserJet CP1514
Color LaserJet CP1515
Color LaserJet CP1516
Color LaserJet CP1517
Color LaserJet CP1518
Color LaserJet CP1519
Color LaserJet CP2024
Color LaserJet CP2025
Color LaserJet CP2026

¹ DCPS V2.6 ECO 3 で追加。

Color LaserJet CP2027
Color LaserJet CP3525
Color LaserJet CP6015
LaserJet M1522 MFP
LaserJet M2727 MFP
LaserJet M9040 MFP
LaserJet M9050 MFP
LaserJet P2055
LaserJet P3011
LaserJet P3015
LaserJet P4014
LaserJet P4015
LaserJet P4515

RICOH

Aficio CL3500N
Aficio MP 161
Aficio MP 2510
Aficio MP 3500
Aficio MP 4500
Aficio MP 5500
Aficio SP 8100DN
Aficio SP C811DN

Xerox

Phaser 4510

3.2.2 USB プリンティングのサポート

DCPS は、OpenVMS V8.3 以降がインストールされたシステムで USB 接続されたプリンタへの出力をサポートするようになりました。

注意

日本語プリンタの USB 接続についてはサポートされていません。

USB プリンタのキューを作成するには、DCPS\$STARTUP.COM の P2 パラメータに次のようにプロトコル“USB”を使用してください。

"USB/usb-device"

USB デバイスの名前は LPA_n: の形式になります。OpenVMS は、システム・ブート時あるいはシステムに差し込まれた時に USB プリンタを認識します。プリンタのデバイス名は、システム・リブート時であっても、電源が切られたりシステムから切り離されたりした場合も同じでなければなりません。

3.2.2.1 USB ソフトウェアの要件

DCPS V2.7 あるいはそれ以降のバージョンをインストールする前に、以下のいずれかのパッチキットをインストールしておく必要があります。

表 3-2 USB パッチキット

OpenVMS バージョン	パッチキット
OpenVMS Integrity V8.3	VMS83I_USB-V0200
OpenVMS Integrity V8.3-1H1	VMS831H1I_USB-V0100
OpenVMS Alpha V8.3	VMS83A_USB-V0100

これらのパッチキット (あるいはそのアップデート版) は以下の場所から入手することができます。

- HP カスタマーサポートセンター

OpenVMS の将来のバージョンにはこれらのパッチキットの内容が含まれます。

3.2.2.2 USB のトラブルシューティング

USB デバイスは“plug-and-play”動作のため、シリアルデバイスとは異なる点があります。また、ほとんどの USB プリンタは、PostScript エラーに関しては DCPS が期待するすべての情報は返しません。このため DCPS は、プリンタから返される“offline”および“tray empty”情報に依存してユーザに状態情報を送信します。以下のようなエラーメッセージが OPCOM 経由でユーザ端末に出力されます。

DCPS-I-TRAYEMP, Print Engine paper input tray is empty

説明: トレイに紙がありません。

ユーザの対処: トレイに紙を補給します。

SYSTEM-I-DEVOFFLINE, device is not in configuration or not available

説明: プリンタの電源が入っていないか、接続されていません。

ユーザの対処: プリンタとケーブルの状態を確認します。

SYSTEM-F-NOSUCHDEV, no such device available

説明: プリンタ・デバイス (LPA_n:) が存在しません。

ユーザの対処: UCM でデバイスを構成します。

USB プリンタの問題に対処する際にプリンタから応答がない場合は、USB ケーブルを数秒間抜くか、プリンタの電源を入れなおして、通常の状態に戻すことが必要になる場合があります。

また、USB Configuration Manager (UCM) を実行して、システムに接続されている USB デバイスについての情報を表示させたり、USB プリンタについての問題の診断が必要になる場合もあります。UCM ユーティリティについては『HP OpenVMS システム管理ユーティリティ・リファレンス・マニュアル』で説明されており、以下のような処理を行います。

- デバイスの差し込みや引き抜きなどのイベントの記録と、USB バスで発生したエラーの記録を行います。
- シリアル番号かバス位置に基づいて、物理デバイスに永続的なデバイス名を割り当てます。
- 既知のデバイスタイプに対して OpenVMS デバイス・ドライバを自動的に構成およびロードします。
- 管理者にシステムに構成されているデバイスの追加、削除、変更の手段を提供します。

たとえば、任意のタイミングで以下のコマンドを実行して、システムにおける USB デバイスの変更についての情報を表示することができます。

```
$ UCM SHOW EVENTS /TYPE=ALL /SINCE=time
```

3.2.3 プリンタの同期化のための論理名の削除

V2.7

DCPS V2.7 よりも前のバージョンでは、他のジョブでビジー状態でないか確認するための問い合わせをプリンタに送信していました。この PostScript 状態問い合わせ (Ctrl/T) は、そのキューが LPD キューでなければ、各ジョブの冒頭で送信していました。この際 DCPS は、プリンタからの“ready”状態の応答を待ってジョブを続行します。

多くのプリンタはこの問い合わせに対して応答しないので、このようなプリンタで印刷を行うと、ジョブがストールして出力が行われません。この問題は、論理名 DCPS\$queueName_NO_SYNC を定義することで DCPS にその問い合わせをスキップさせることで回避できました。

通常はこの問い合わせは必要ないため、DCPS のデフォルトの動作が変更され、問い合わせを省略するように修正されました。このため、論理名 DCPS\$queueName_NO_SYNC はもはや必要ないため、DCPS はこの論理名を無視します。

プリンタによっては、DCPS が問い合わせを送信し応答を待つという古い動作が必要となる場合もあります。このようなプリンタに対しては、論理名 DCPS\$queueName_SYNC を定義することで問い合わせを送信させることができます。

3.3 DCPS V2.7 で修正された問題点

本バージョンでは、以前のバージョンで発生していた以下のような問題点が修正されています。

3.3.1 ホチキス留めジョブに関する問題

3.3.1.1 LPD キュー

V2.6 ECO 1

DCPS LPD キューで印刷されるジョブでホチキス留めが要求された場合、印刷ジョブが失敗するという問題がありました。この際、要求されていればセパレータ・ページは出力されますが、ユーザ・ファイルは出力されませんでした。また、エラーの出力もありませんでした。

この問題は解決されています。

3.3.1.2 Xerox WorkCenter Pro プリンタ

V2.6 ECO 3

Xerox WorkCentre Pro プリンタに対する印刷ジョブでホチキス留めが要求された場合、プリント・ジョブが失敗するという問題がありました。この際、要求されていればセパレータ・ページは出力されますが、ユーザ・ファイルは出力されませんでした。また、エラーの出力もありませんでした。

本バージョンでは、ジョブのホチキス留めは行われますが、プリンタがジョブを処理する方法が原因で、セパレータ・ページもユーザ・ファイルの出力にホチキス留めされます。

3.3.1.3 HP Color LaserJet 9500 MFP プリンタ

V2.6 ECO 3

HP Color LaserJet 9500 MFP プリンタに対する印刷ジョブでホチキス留めが要求された場合、その印刷ジョブが失敗するという問題がありました。要求された出力トレイでホチキス留めがサポートされていても、以下のようなエラーメッセージが出力されていました。

```
%DCPS-E-STPOUTTRAY, Selected output tray does not support stapling  
-DCPS-I-JOB_ID, for job STAPLE (queue HP9500MFP, entry 725) on HP9500MFP
```

この問題は解決されています。

3.3.2 HP LaserJet P2015 の両面印刷に関する問題

V2.6 ECO 1

HP LaserJet P2015 プリンタで両面印刷ジョブを実行しようとするときのようなエラーで処理に失敗するという問題がありました。

%DCPS-E-DPLXNOSUP, printer does not support duplex printing

この問題は解決されています。

3.3.3 Xerox Phaser 4500 でのいくつかのジョブが失敗する問題

V2.6 ECO 1

Xerox Phaser 4500 に対するいくつかのジョブが失敗する問題がありました。この際、セパレータ・ページが要求されている場合はそのみ出力され、ユーザ・ファイルは出力されませんでした。この問題は、PlanetPress 形式を使用した場合に報告されていましたが、他の状況でも発生する可能性がありました。

この問題は解決されています。

3.3.4 ANSI LPD 出力が間違った紙サイズでフォーマットされる問題

V2.6 ECO 1

以下の状況に当てはまる場合に、間違った紙サイズで出力がフォーマットされる問題がありました。

- DCPS ANSI トランスレータでテキストあるいは ANSI ファイルが印刷された場合
- DCPS LPD キューが使用された場合
- サイズ選択のために論理名DCPS\$SHEET_SIZEあるいはDCPS\$queue_name_SHEET_SIZEが定義された場合

この際、正しいサイズの紙が使用されますが、出力のフォーマットが正しくありませんでした。たとえば、DCPS\$SHEET_SIZE が“A4”に設定されている場合、そのジョブは A4 サイズの紙に印刷されますが、その内容はレターサイズ用にフォーマットがされていました。

この問題は解決されています。

V2.7

上記の状況に加えて NUMBER_UP が指定されている場合、間違った紙サイズでフォーマットされるという問題がありました。

この問題も修正されています。

3.3.5 PostScript Level 1 プリンタに対するジョブが失敗する問題

V2.6 ECO 3

DCPS V2.6 以降で、以下のようなエラーメッセージを表示して PostScript Level 1 プリンタに対するジョブが失敗するという問題がありました。

```
%DCPS-W-SYNERR, syntaxerror: Input ended in string or procedure body -  
offending command is --nostringval--
```

この問題は解決されています。

この問題は以下のプリンタで発生していました。

- Digital

- Colormate PS (LF01R)
- DEClaser 1150 (LN07R)
- DEClaser 2150 (LN05R)
- DEClaser 2250 (LN06R)
- DEClaser 3250 (LN08R)
- PrintServer 17 (LPS17)
- PrintServer 20 (LPS20)
- turbo PrintServer 20
- PrintServer 32 (LPS32)
- PrintServer 40 (LPS40)
- PrintServer 40 Plus
- ScriptPrinter (LN03R)

- HP

- LaserJet III (PostScript Level 1 カートリッジ付)
- LaserJet IIID (PostScript Level 1 カートリッジ付)
- LaserJet IIISi (PostScript Level 1 オプション付)
- PaintJet XL300

- Apple

- LaserWriter II NT
- LaserWriter II NTX
- LaserWriter Plus

3.3.6 HP LaserJet 9055 および 9065 MFP の出力トレイの選択が失敗する問題

V2.6 ECO 3

HP LaserJet 9055 MFP および 9065 MFP プリンタに印刷する際に出力トレイが指定されている場合、プリント・ジョブが失敗するという問題がありました。PostScript エラーを出力するようにそのプリンタが構成されている場合、以下のようなメッセージが出力されます。

```
ERROR: syntaxerror
OFFENDING COMMAND: --nostringval--
STACK:
/bin_1
-mark-
```

この問題は解決されています。

3.3.7 CD からのインストールが失敗する問題

V2.7

OpenVMS のインストレーション CD や DVD などの読み取り専用デバイスからブートしている場合、DCPS をインストールする際にエラーが返され、インストールが失敗するという問題がありました。

DCPS V2.6 ECO 3 より前のバージョンでは、次のようなエラーでインストレーションが失敗しました。

```
Examining system environment ...
%DCL-W-UNDSYM, undefined symbol - check validity and spelling
\NUMBER_OF_NODES\
```

DCPS V2.6 ECO 3 では、次のようなエラーでインストレーションが失敗しました。

```
Examining system environment ...
%SORT-F-OPENOUT, error opening * as output
-RMS-E-WLK, device currently write locked
```

これらの問題は解決されています。

注意

OpenVMS Integrity でご利用の場合は、DCL の SET DEFAULT コマンドでデフォルト・デバイスをシステム・ディスクに設定しておかないと CD からのインストールが失敗するという制限事項があります。

詳しくは『HP OpenVMS V8.4 リリース・ノート[翻訳版]』の 1.5 節「HP DECprint Supervisor のインストールに関する制限事項」を参照してください。

3.3.8 LPD バナーページ上に情報が表示されない問題

V2.7

いくつかのプリンタでは、LPD バナーページを出力するように構成することができます。プリンタの LPD バナーページは DCPS が出力するものではなく、DCPS が出力するジョブあるいはファイルのセパレータ・ページと同じものでもありません。プリンタは、LPD ジョブのデータを使用して、システム名、ユーザ名、ジョブ名などの、そのページのジョブについての情報を含めます。DOCS がこの情報をプリンタへは送信しなかったため、システム名およびユーザ名が "unknown" と表示され、ジョブ名はそのジョブ名の内部表現として表示されていました。

本バージョンでは、プリンタにこの情報を送信するように変更されています。このため、自身の LPD バナーページを出力するようにプリンタが構成されている場合は、プリンタの LPD バナーページで正しい情報が使用されます。

プリンタ固有の情報

この章では、特定のプリンタに対して適用される DCPS の使用方法について説明します。なお、『DCPS システム管理者ガイド』および『DCPS ユーザーズ・ガイド』にもプリンタ固有の情報が含まれてますので適宜参照してください。

4.1 LPD 印刷時のトレイに関する制限事項

印刷に LPD を使用する際、トレイ内の用紙のサイズが DCPS が期待するものと異なる場合は INPUT_TRAY パラメータでトレイ名は指定できません。

これは、LPD は単一方向の機能であるため、プリンタから DCPS へ情報を戻すことができないためです。つまり、プリンタ・トレイ内の用紙のサイズを DCPS へ送ることができません。

『DCPS システム管理者ガイド』で説明するように、LPD キューで使用する用紙のサイズを DCPS に指示するには、論理名 `DCPS$[queue_name_]SHEET_SIZE` を定義します (この論理名が定義されていない場合、DCPS はレター・サイズを使用します)。ただし、定義されたサイズと異なる用紙がトレイに含まれている場合、そのトレイ名を選択することはできません。この場合、トレイ名ではなく用紙サイズかメディア・タイプを選択します。

この制限事項は DCPS の将来のバージョンで解決される予定です。

4.2 HP プリンタ

HP 製プリンタでは、通常トレイ 1 は種々のサイズやタイプに対応する多目的トレイとして使用されます。このようなプリンタでは、トレイ 1 のページ・サイズおよびメディア・タイプを“ANY”に定義できます。出荷時のデフォルトの設定はこの値です。

DCPS ジョブに対しては、ページ・サイズおよびメディア・タイプを実際のサイズ、あるいは通常使われるサイズに設定することをお勧めします。トレイ 1 が“ANY”に設定されていると、選択した印刷オプションに依存して DCPS は間違ったトレイから印刷を行う可能性があります。

プリンタの設定は、フロント・パネル、そのプリンタの Web、あるいは Web JetAdmin プリンタ管理ユーティリティで変更することができます。

4.3 Xerox プリンタ

以下の Xerox 製プリンタに IP プロトコルで出力する場合は LPD を使用しなければなりません。

Xerox Phaser (全モデル)

Xerox WorkCentre Pro (全モデル)

これらのプリンタは、Raw TCP あるいは非スプール LPD はサポートされていません。スプール LPD キューの設定方法についての詳細は、付録 B および『DCPS システム管理者ガイド』を参照してください。

4.4 プリンタのファームウェア

HP 製プリンタの場合、ファームウェアのバージョンは、そのプリンタの Web ページあるいは WebJetAdmin プリンタ管理ユーティリティの configuration page に“Firmware Datecode”として表示されます。

4.4.1 プリンタのサービス・エラー

HP 製プリンタで PostScript ファイルを印刷する際に、49.4C02 サービス・エラーが発生する場合があります。この問題は、プリンタのファームウェアで修正されています。表 4-1 に、この問題が発生するプリンタと問題を修正するためのファームウェア・バージョンを示します。

表 4-1 ファームウェアによるサービスエラーの修正

プリンタ	ファームウェア・バージョン
HP Color LaserJet 4650	20050524 07.003.3
HP Color LaserJet 5550	20050524 07.007.3
HP LaserJet 4250	20050831 08.009.3
HP LaserJet 4350	20050831 08.009.3
HP LaserJet 9050	20050617 08.102.2
HP LaserJet 9055 MFP	20050601 07.004.0
HP LaserJet 9065 MFP	20050601 07.004.0

4.4.2 キューの起動に関する問題

いくつかの HP プリンタは、ジョブの最初の DCPS 同期要求に応答しません。これらのプリンタでは、プリンタのパーソナリティ設定を PS (PostScript) に設定することをお勧めします。ただし、プリンタのパーソナリティを PS (PostScript) に設定するだけではこれらのプリンタの問題は解決できません。

この問題は、以下のバージョンのプリンタ・ファームウェアで解決されています。

表 4-2 推奨される最小ファームウェア・バージョン

Printer	Firmware
HP Color LaserJet 5500	20030605 04.016.2
HP LaserJet 2300	20030530 04.047.2
HP LaserJet 4200	20030530 04.016.1
HP LaserJet 4300	20030530 04.016.1

なお、HP Color LaserJet 2500 プリンタにはこの制限事項が残っています。

日本語 DCPS の使用上の注意事項および制限事項

この章では、日本語版の DECprint Supervisor に固有の注意事項および制限事項について説明します。

5.1 HP LaserJet プリンタにおける日本語ファイルの出力に関する注意事項

HP LaserJet および HP Color LaserJet プリンタで日本語を含んだデータ (テキストあるいは PostScript) を印刷するには、日本語 PostScript フォントをプリンタにインストールする必要があります (日本語 PCL フォントでは印刷できません)。

LaserJet の日本語 PostScript フォントは、プリンタの機種ごとに別売のメモリ・モジュール (DIMM) またはコンパクト・フラッシュ・メモリ・カードで提供されています。

注文番号や購入方法など、詳細は弊社営業担当までお問い合わせください。

5.1.1 LaserJet プリンタでの日本語出力に関する制限事項

日本語フォントをインストールした LaserJet プリンタには次の制限事項があります。

- ・ 縦書きフォントはサポートされません。
- ・ Shift JIS (RKSJ) エンコーディングの PostScript フォントは提供されていないため、正しく出力できません。
- ・ 日本語フォントを使用した場合、ページ範囲を指定した印刷はサポートされません。

5.2 A4 用紙にランドスケープ・モードで印刷する場合

日本語 DECprint Supervisor V1.2 以前の ANSI トランスレータは、A4 用紙へのランドスケープ・モードで 66 行出力する場合に次のような問題がありました。

サポートされているプリンタの中には、A4 用紙への印刷可能領域が平均的な印刷領域よりも少し狭いものがあります。このようなプリンタでプリント・パラメータが PAGE_SIZE=A4, PAGE_ORIENTATION=LANDSCAPE に設定されていると、印刷時に 66 行目の内容が失われてしまったり、切れてしまう場合があります。

日本語 DECprint Supervisor V1.2 以降に添付される ANSI トランスレータは、A4 用紙へのランドスケープ・モードでの印刷で 66 行目も正しく出力します。これを行うために、ANSI トランスレータが使用するフォント (SGR 15) の縦方向のスペーシングが変更され、A4 用紙の最大印刷可能領域の値が修正されています。

従来のトランスレータの出力結果の方を使いたい場合、DCPS キュー論理名を次の例のように定義します。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCP$<queue-name>_OLD_ANSI_PAGE_SIZES TRUE
```

なお、漢字 ANSI トランスレータに対しては、この修正は行なわれていません。漢字トランスレータ使用時に 66 行目が正常に印刷されない場合は、FULL_A4_LANDSCAPE のレイアウト定義ファイルを使用して印刷してください。

5.3 半角英数字フォント

Ryumin-Light.Roman および GothicBBB-Medium.Roman などの日本語フォントには、JIS ローマ字セット以外の文字は含まれていません。このため、装置制御ライブラリ DCP\$DEVCTL.TLB の拡張された findfont オペレータで、これらのフォントに対して ISOLatin1 および DEC マルチナショナル文字セットを使用することはできません。

5.4 テキスト・トランスレータ

ここではテキスト・トランスレータについての注意事項を説明します。テキスト・トランスレータについての詳細は、『日本語トランスレータ リファレンス・マニュアル』を参照してください。

5.4.1 フォーム定義に関する注意事項

漢字 LN05 の標準設定では、フォーム・データ用のメモリは 16 ページあわせて 64 K バイトとなっています。この値は、グラフィック・オプションなどの使用で増やすことができます。トランスレータによるフォーム・オーバーレイでは、1 ページあたり 64 K バイトまでのフォーム・データを登録することができます。1 ページあたり 64 K バイトを越えるフォーム・データを登録しようとする、DECLKF シーケンスそのものが無効になります。

PRINT コマンドでマルチファイル指定をした場合、あるファイル内で登録したフォーム・データを他のファイルで使用することはできません。

複数のファイルで共通のフォームを使用したい場合は、フォーム・データをセットアップ・モジュールとして登録し、そのモジュールを PRINT コマンドの /SETUP 修飾子で指定してください。

5.4.2 複数ファイルの印刷に関する注意事項

複数ファイルを 1 つのプリント・ジョブで印刷する場合、各ファイルの先頭で初期設定が行われます。このため、あるファイルの中で行った設定を、次のファイルで利用することはできません。このようなときは、セットアップ・モジュールに必要なエスケープ・シーケンスを登録しておくことにより、各ファイルの初期状態を制御することができます。

5.4.3 LN82R での外字と斜体 (イタリック) 属性が混在すれ際の注意事項

LN82R に印刷されるファイルに外字が含まれ、かつイタリック属性が漢字に対して指定されると、PostScript の FATAL エラーになる場合があります。この場合、プリント・キューを停止し、キューからジョブを削除し、プリンタの電源を入れ直してください。

5.4.4 テキスト・トランスレータの性能

テキスト・トランスレータで日本語文書を印刷する場合、必ずしもプリンタ・ハードウェアの最高速度では印刷できません。白黒反転や網かけ、倍角文字、縦書き、外字があるとき、および 1 バイト文字と 2 バイト文字が頻繁に交互に現われるような場合には、印刷速度はさらに遅くなります。

5.4.5 テキスト・トランスレータの外字と内蔵フォント

日本語 PostScript プリンタの内蔵漢字フォントは、PostScript のアウトライン・フォントです。外字は日本語 VMS の FEDIT ユーティリティ、または CHARACTER_MANAGER ユーティリティで作成することができますが、このフォントは、40 ドット × 40 ドットまたは 32 ドット × 32 ドットのビットマップ・フォントです。したがって、外字の倍角文字は内蔵フォントの倍角文字に比べて、印字品質が劣ります (ギザギザが見えます)。

5.4.6 罫線文字に関する注意事項

テキスト・トランスレータで使用している罫線文字は、文字間隔/行間隔が文字サイズに比べてかなり大きいときにはつながりません。

また、この罫線は PostScript フォントを使用して表示しているため、表示される位置やサイズによっては装置上で 1 ピクセル程度のずれを生じることがあり、結果として、罫線が一直線にならない場合があります。

5.4.7 SIXEL と文字の重ね合わせに関する注意事項

SIXEL とテキストを座標指定 (VPA, HPA など) で位置を指定して、同じページ上で重ね合わせるとき、印刷可能領域上端付近 (通常トップ・マージンの位置) の座標を指定した場合、結果として表示される文字や SIXEL の縦方向 (Y 座標) の位置が LN03/漢字 LN03 とテキスト・トランスレータでは異なります。

SIXEL では、どちらも通常は SIXEL の上端の座標が、指定された Y 座標から 70 ピクセル上になるように表示しますが、LN03/漢字 LN03 では、この表示方法を取ったときに SIXEL が印刷可能領域上端を超える場合には、SIXEL の上端の座標が、印刷可能領域上端になるように位置を下げて表示します。このため、印刷可能領域上端付近の座標を指定して文字と SIXEL を重ねた場合に、LN03/漢字 LN03 とテキスト・トランスレータの出力を比べると、LN03/漢字 LN03 の SIXEL はテキスト・トランスレータよりもやや下にずれます。印刷可能領域上端から離れた位置を指定した場合には、両者に違いは見られません。

5.4.8 テキスト・トランスレータのプロログ処理に関する注意事項

テキスト・トランスレータは、印刷ジョブの開始時に、大量の PostScript プロログ処理 (初期設定) を行います。この処理は印刷ジョブの内容によらず常に同じなので、初めからプリンタに常駐させておけば、ジョブの最初の 1 ページが出力されるまでの時間を短縮することができます。デフォルトでは、プロログを常駐させることにしていますが、このことはテキスト・トランスレータ以外の印刷ジョブにとっては、利用できる PostScript VM (Virtual Memory) が減少していることを意味します。

弊社では、PostScript アプリケーションが VM を 400KB 以上使わないようにお勧めしますが、もしもこの制限を守っていないソフトウェアがあると、PrintServer プリンタでは VM が足りないというエラーで実行できなくなる場合があります。

PrintServer プリンタとシリアル・プリンタではプロログを常駐させる処理が異なります。

- 日本語 DEC PrintServer サポートینگ・ホスト・ソフトウェア V4.2 または日本語 PrintServer Software V5.0, V5.1 を使用している場合

このサポートینگ・ホスト・ソフトウェアを使ってブートされた PrintServer では、DCPS と互換性のあるプロログが常駐しているので、特別に処理をする必要はありません。また、このサポートینگ・ホストでは、プロログは必ず常駐していなければなりません。

- PostScript シリアル・プリンタの場合

PostScript シリアル・プリンタでは、プリンタの電源投入後の最初のプリント・ジョブで、プロログが常駐しているかどうかをチェックし、していなければダウンロードします。この時、PostScript パスワードがプリンタ出荷時の設定になっていない場合 (LN82R では 0 でない場合)、プロログは常駐されません。つま

り、PostScript パスワードをデフォルト以外の値に設定することによって、常駐をやめることができます。

5.4.9 PostScript フォント UniqueID

テキスト・トランスレータでは、使用する PostScript フォントに対して、UniqueID を指定しています。3658490 から 4194312 の UniqueID は他の PostScript アプリケーションでは使用しないでください。

5.4.10 半角ローマ字フォントの制限

PrintServer では、内蔵 PostScript フォントの Ryumin-Light.Roman および GothicBBB-Medium.Roman の半角ローマ字フォントは、JIS ローマ字以外の文字セットをサポートしません。このため、テキスト・トランスレータでは明朝体半角ローマ字フォントを PostScript Courier フォントで代用しています。

ゴシック体半角ローマ字は PostScript の半角ローマ字を使用しているため、JIS ローマ字または ASCII 文字セット以外の文字セットを指定した場合、存在しない文字は空白(スペース)文字で置き換えられます。

5.4.11 SETUP モジュールでの印刷に関する注意事項

ANSI(ASCII)、KANJI、KANJI78 または LA_KANJI データ・タイプの SETUP モジュールを作成し、その中で文字を印刷することができますが、この文字を PRINT コマンドで指定したファイルの先頭ページに印刷することはできません。SETUP モジュールの中で印刷した場合には、PRINT コマンドのファイルを印刷する前に改ページが行われます。ANSI(ASCII)、KANJI、KANJI78 または LA_KANJI データ・タイプで SETUP モジュールを作成し、その中でフォント・ローディング命令またはピッチ指定命令を使用したときには、空白(スペース)文字を含む実際の文字の印刷を SETUP モジュールの中で行うことはできません。

5.4.12 DECVPFPS とマージン

可変ページ・フォーマット選択命令 (DECVPFPS) でページ・オリエンテーションを変更する場合、オリエンテーション変更後のページ・マージン(上下マージン、左右マージン)も同時に指定してください。

マージンを新たに指定しない場合、従来のマージンの値が採用され、シートの外にマージンが設定された状態になることがあります。

5.4.13 DECVERP , DECSHORP のパラメータ Ps=0

漢字 LN05 とテキスト・トランスレータの 8 ポイント・フォントの高さは、それぞれ 768 centipoint と 922 centipoint として定義されています。このため、フォントの高さをもとに位置を制御する命令を使うと、出力結果が異なってしまいます。これを避けるため、行ピッチの指定は SPI などでも明示的に行うようにしてください。

また、8 ポイント・フォントを使っていないファイルでも GSM (文字サイズ指定命令) の後に、DECVERP , DECSHORP のパラメータで 0 を指定すると、漢字 LN05 とテキスト・トランスレータで行ピッチ/文字ピッチの違いが生じることがあります。この場合も SPI などで行ピッチ/文字ピッチを明示的に指定する事により、同様に互換性を保つことができます。

5.4.14 A4 ページ・サイズでの文字ピッチに関する注意事項

A4 ページ・サイズに対して、デフォルト状態での文字属性指定命令 (SGR) で、Ps=10 または 11 によりフォント指定後、文字ピッチ指定命令 (DECSHORP) の Ps=0 を指定した時の文字ピッチは、10cpi でなく 10.3cpi となります。

5.4.15 SS2 と SS3 に関する注意事項

SS2 または SS3 に続いてコントロール・コードがあった時の処理が、LN05 などと異なる場合があります。SS2 または SS3 は、対象となる文字コードの直前に入れるようにしてください。

5.4.16 SUB に関する注意事項

SUB コードが漢字コードの 1/2 バイト間に割り込んだ場合の処理が、LN05 などと異なります。LN05 では SUB コードを漢字の 2 バイト目とみなして全角のリバース・クエスチョンを出力しますが、テキスト・トランスレータは SUB コードを先に処理するため、漢字は正常に出力されます。

5.4.17 DEC DUTCH と DEC FRENCH に関する注意事項

DEC DUTCH 文字セットの 4/0 と 7/11 および DEC FRENCH 文字セットの 7/14 は、マニュアルの記述と違う文字が出力されます。

5.4.18 PLD と PLU に関する注意事項

下線、上線、二重下線は、PLD , PLU を行っても移動しません。

5.4.19 垂直タブに関する注意事項

VT によって次の垂直タブ位置まで移動する場合、行間隔が狭すぎるとさらに次の垂直タブ位置まで移動することがあります。このときには、行間隔をひろげるか、または今より小さいフォントを使うことにより、所要のタブ位置に移動することができます。

5.4.20 DECVERP と垂直タブ位置に関する注意事項

DECVERP (行ピッチ選択命令) を行った場合、垂直タブはホーム・ポジションを基準とした位置にすべて再設定されます。このため、最初の VT による垂直方向の移動量は、現在の位置によって変化しますが、次の VT からは DECVERP によって設定された行ピッチと等しくなります。

5.4.21 DECDHLT と DECDWL の組み合わせに関する注意事項

LA_KANJI データ・タイプで、DECDHLT (行拡大命令・4 倍角) がすでに有効となっている行で DECDWL (行拡大命令・横倍角) を指定した場合、DECDWL は無視されます。同じ行のなかで行拡大命令を組み合わせることは避けてください。

5.4.22 DECSTBM と DECVERP に関する注意事項

LA_KANJI データ・タイプでは、DECSTBM (上下マージン設定命令) で設定されたマージンは DECVERP (行ピッチ選択命令) ではクリアされません。この場合、DECSTBM によってマージンを再設定してください。

5.4.23 SHS と DECSHORP または GSM と DECSHORP を組み合わせた場合の注意事項

SHS (水平ピッチ選択命令) と DECSHORP (水平ピッチ選択命令) の組み合わせ、または GSM (文字サイズ指定命令) と DECSHORP の組み合わせで、水平タブ位置が LN05 などと合わないことがあります。この場合、水平タブのかわりにスペースを使うことにより、同じ出力を得ることができます。

5.4.24 JFY に関する注意事項

JFY (行揃え) をオフに設定した行は、その 1 行すべてが行揃えされなくなります。

5.4.25 DECVERP と DECSLPP に関する注意事項

DECVERP (行ピッチ選択命令) によって行ピッチが指定されていた場合、DECSLPP (用紙長設定命令) で設定した行数より 1 行早く改ページする場合があります。このときには、行間隔をひろげるか、または今より小さいフォントを使うことにより、指定した行数で改ページするようになります。

5.4.26 DECVERP による縦倍角のクリア

LA_KANJI データ・タイプでは、GSM(文字サイズ変更命令) による縦倍角指定は、DECVERP (行ピッチ選択命令) によって解除されます。

5.4.27 ファイルの先頭が改ページまたは改行と改ページの場合の注意事項

テキスト・ファイルの先頭が、改ページ・コードまたは改行と改ページで始まる場合、漢字 LN03 に比べて余分な白紙が 1 枚多く出力されることがあります。このようなときは、先頭の不要な改ページ・コードを取り除くか、またはファイル・フォーマットを stream_LF に変更することにより、漢字 LN03 と同様な動きになります。

5.4.28 DEClaser2400 (漢字 LN10) との違い

DEClaser 2400 で提供されている以下の機能は、テキスト・トランスレータでは利用できません。

- ・ 漢字アウトライン・フォント・オプションによる、フォントのスケーリング

5.4.29 文字属性に関する注意事項

文字属性にアンダーライン、二重アンダーライン、抹消ライン、反転、または網かけが設定されている場合、文字ピッチの設定およびそのときに使用される文字フォントの組み合わせによっては漢字と英数字との間で文字属性に 1 ピクセル程度のずれを生じることがあります。

5.5 日本語版 DCPS に関するその他の情報

この節では、日本語 DCPS 製品に関する一般的な情報で、他のドキュメントに含まれないものを示しています。

5.5.1 カラー・セパレータ・ページと日本語 PrintServer 17/600 給紙トレイ切り替えの相互作用

日本語 PrintServer Software V5.0, V5.1 では、日本語 PrintServer 17/600 プリンタに給紙トレイの自動切り替え機能を提供しています。これにより、現在の給紙トレイが空になったとき、プリンタは同じサイズの用紙が入っている別の給紙トレイに、自動的に切り替えます。この機能は省略時設定で有効です。

現在色つきの紙のフラグ・ページを使用している場合、この給紙トレイ切り替え機能を無効にできます。以下のステップを実行してください。

1. LPS\$SUPPORT:LPSDEFAULTS.*printer-name* を編集する
2. /TraySwitch パラメータを検索する

```
/TraySwitch true                % Controls input tray failover.  
                                % false = disable  
                                % true = enable
```

3. /TraySwitch パラメータの値を、「true」から「false」へ変更する。必ず小文字で「true」か「false」と記述してください。

```
/TraySwitch false              % Controls input tray failover.  
                                % false = disable  
                                % true = enable
```

4. 新しい値を有効にするために、日本語 PrintServer 17/600 プリンタを再構成またはリブートする

詳しくは『DEC PrintServer Supporting Host Software for OpenVMS Management Guide』を参照してください。

DCPS の制限事項

この章では、DECprint Supervisor に関する注意事項および制限事項について説明します。

日本語版の DECprint Supervisor に固有の制限事項については、本書の第 5 章で説明しています。また、プリンタ固有の制限事項については、本書の第 4 章に加えて以下のドキュメントも参照してください。

- 『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム管理者ガイド』のプリンタ固有の情報の章
- 『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』のプリンタ固有の情報の章

6.1 OpenVMS V8.2 およびそれ以降のバージョンにおける AppleTalk

DCPS が使用するネットワーク・プロトコルの 1 つとして、OpenVMS Alpha および VAX システム上のレイヤード製品である PATHWORKS for OpenVMS (Macintosh) で提供される AppleTalk があります。この製品はすでにリタイヤしておりサポートされていませんが、DCPS はその後も AppleTalk キューとの動作が可能でした。

しかし、OpenVMS V8.2 でオペレーティング・システムに対して行われた変更により、AppleTalk プロトコルは開始できなくなりました。このため、OpenVMS V8.2 以降、DCPS は AppleTalk キューと動作することはできません。

OpenVMS V8.2 以降は、次のようなメッセージが表示され、キューの起動に失敗します。

```
%DCPS-F-CANNOTSTART, cannot start queue queue_name
%DCPS-F-TRANSPORTNOTSUP, transport not supported - AppleTalk
%SYSTEM-F-IVPARAM, invalid parameter specified
```

OpenVMS クラスタ環境で AppleTalk プロトコルを使用したい場合は、可能であれば、キューを実行するノードを OpenVMS V8.2 より前のバージョンに変更してください。

6.2 自動検出機能付きプリンタを使用する場合の注意事項

多くのプリンタでは、プリント・ジョブのデータ・タイプを検出することができます。このようなプリンタでは、フロント・パネルまたはプリンタ管理ソフトウェアを使用して、接続チャンネル毎に自動検出の状態と自動検出機能が有効になっているかどうかを調べることができます。

この機能を提供するほとんどのプリンタについては、プリンタが“PostScript”モードあるいは“Auto-Sensing”モードに設定されている場合に日本語 DECprint Supervisor ソフトウェアが正しく動作します。このため、このようなプリンタでは、DCPS キューを起動する前に上記のいずれかのモードで動作するように設定しておかなければなりません。プリンタが“PCL”モードに設定されていると DCPS ソフトウェアは正しく動作しません。

詳細については、本書の第 4 章および『DCPS システム管理者ガイド』を参照してください。

6.3 Raw TCP/IP キューでのジョブの "Starting" 状態

Raw TCP/IP 接続を使用する DCPS キューを設定する際にプリンタに不正な TCP ポート番号を指定した場合、そのキューに出力したプリント・ジョブは "Starting" 状態のままとなります。これは、DCPS がネットワーク障害とプリンタのビジー状態あるいはオフライン状態を区別できないため、DCPS がユーザによる不正なポート番号指定であるかどうかを判断することができないことが原因です。

これ以外の理由によっても Raw TCP/IP キュー内のプリント・ジョブが "Starting" 状態のままとなる場合があることに注意してください。

プリンタ、ネットワーク・インタフェース・カード、プリント・サーバ、ターミナル・サーバのドキュメントをチェックし、正しい TCP ポート番号を使用していることを確認してください。TCP ポート番号については、本書の表 A-1 にも記述されています。

6.4 Raw TCP/IP キューの接続の切断

HP Color LaserJet 9500、LaserJet 9055 MFP、あるいは LaserJet 9065 MFP などのデータ・スプール用に大きなメモリあるいはディスクを備えたプリンタでは、Raw TCP/IP 接続を使用している場合に、長いプリント・ジョブで CONTERMINATED エラーが発生する可能性があります。

単一のファイルから構成されるジョブあるいはプリンタのネイティブ PostScript 互換機能のみを使用している場合、このエラーはジョブの最後で発生する傾向があり、(キューに対してトレーラを指定している場合) トレーラ・ページは出力されず、(プ

リント・ジョブのアカウント機能を有効としている場合) アカウント情報は消失します。これ以外のジョブについてはジョブの途中で発生する可能性があり、トレーラ・ページと同様に以降のドキュメントは出力されず、(プリント・ジョブのアカウント機能を有効としている場合) アカウント情報は消失します。DCPS は中断されたジョブを再度キューに登録して "Holding" 状態とし、ユーザによる問題解決後に再度そのジョブを出力できるようにします。

HP JetDirect カードを含むいくつかのネットワーク・デバイスでは、指定された時間内にホスト・システムから入力を受け取らない場合には、TCP/IP 接続が切断されます。これは、ホスト・ソフトウェアによるデバイスの専有を防ぐための機能です。ただし DCPS は、プリンタが PostScript から別のネイティブ・プリンタ言語に切り替える場合、あるいはトレーラ・ページの出力およびアカウント情報の収集を行う場合、その前に出力したドキュメントをプリンタが出力したことという通知を受け取るまで待ちます。この場合はたとえプリンタがビジー状態であっても、指定されたタイムアウト時間が経過するまで、NIC は DCPS からのそれ以上の入力を受け取ることができません。

NIC の TCP/IP アイドル・タイムアウト時間の変更が可能である場合は、タイムアウトを無効とすること、あるいはタイムアウト時間を長くすることによってこの問題を回避することができます。NIC のドキュメントをチェックして、これが可能であるかどうか、また可能であればその方法を確認してください(最近の HP のプリンタでは、この設定を TCP/IP のアイドル・タイムアウトと呼んでいます)。続いて、必要な出力が得られないため、キューに再登録されたジョブを解除し、キューに再登録されているその他のジョブを削除してください。

重要なのはジョブのサイズではなく、その処理にかかる時間であることに注意してください。たとえば、非常に小さな PostScript プログラムであっても、出力に非常に長い時間がかかる場合があります。このため、どの程度のタイムアウト時間が適当であるのかを予想することは一般的に困難です。

6.5 使用不能な Raw TCP/IP プリンタについての NOT_READY 警告メッセージ

Raw TCP/IP 接続を使用するプリンタのキューにジョブを登録した際に、そのプリンタがビジー状態あるいはオフライン状態である場合は、そのプリンタについて NOT_READY 警告メッセージが表示されます。プリンタがビジー状態にあることが確実である場合は、このメッセージを無視することができます。DCPS は、プリンタがビジー状態であるか、オフライン状態であるか、その他の理由により使用不能であるかを区別することができません。

6.6 カラー PostScript を生成できないトランスレータ

DCPS で提供されているトランスレータ (たとえば ReGIS) は、カラー情報を含んでいるソース・ファイルであっても、カラー PostScript コマンドを生成することはできません。カラー情報は、グレースケールに変換されます。

6.7 PostScript Level 2 プリンタでのジョブのトレーラ・ページのシフト排紙

PostScript Level 2 プリンタで各ジョブを分離して出力するようにジョブ・シフト排紙を有効にしている場合、ジョブ本体とそのトレーラ・ページ間でシフト排紙が発生します。

6.8 特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可

トレイ選択のエスケープ・シーケンスを含む ANSI ファイルを出力する場合、使用しているプリンタによっては出力できない可能性があります。この場合、offending command is “setpapertray” という PostScript 構成エラーが発生してジョブが中断されます。

また、Compaq Laser Printer LN16 などのいくつかのプリンタでは、PostScript トレイ番号 0 の給紙トレイを持っています。トレイを選択するために ANSI エスケープ・シーケンス DECASFC が使用されますが、0 という値はトレイの変更がないという意味であり、トレイ 0 の選択はできません。たとえば、次の ANSI エスケープ・シーケンスはトレイ 0 を選択せず、トレイの変更なしを示します。

```
<CSI>0!v
```

この問題の回避策は、TRN\$XLATE_DICT ディレクトリ内に settoptray、setbottomtray、setlcitray という PostScript コマンドを再定義するセットアップ・モジュールを作成して起動することです。

たとえば、Compaq Laser Printer LN16、DIGITAL Laser Printer LN15 あるいは LN15+ の場合は、settoptray、setbottomtray、setlcitray を次のように定義するセットアップ・モジュールを作成します。

```
TRN$XLATE_DICT begin
  /settoptray      { statusdict begin 0 setpapertray end } def
  /setbottomtray   { statusdict begin 1 setpapertray end } def
  /setmanualfeedtray { statusdict begin 3 setpapertray end } def
end
```

たとえば HP LaserJet 4M Plus の場合には、settoptray、setbottomtray、setlcitray を次のように定義するセットアップ・モジュールを作成します。

```
TRN$XLATE_DICT begin
  /settoptray { statusdict begin 3 setpapertray end } def
  /setbottomtray { statusdict begin 0 setpapertray end } def
  /setlcitray { statusdict begin 1 setpapertray end } def
end
```

PostScript トレイ番号は、『DCPS ユーザーズ・ガイド』に記述されています。

6.9 ホストにステータス・メッセージを送信しないいくつかのプリンタ

内部的なアーキテクチャのため、いくつかのプリンタではプリンタと通信しているホスト・システムではなく、プリンタ・コンソールにステータス情報を通知するものがあります。このため DCPS はいくつかのステータス状態（たとえば紙切れ、紙詰まり、複雑すぎるページ、カバーの開放など）を検出できないため、ユーザにその状態を通知することができません。その代わり、その後に DCPS がそのプリンタと通信しようとした場合に、DCPS キューは "Stalled" 状態となります。これは最初にこの問題が発生したジョブで表示されることも、その後のジョブで表示されることもあります。

この問題が発生するプリンタは次のとおりです。

- DEClaser 5100 プリンタ
- LN17ps プリンタ
- いくつかの HP LaserJet III プリンタおよび IV プリンタ（ただし、紙詰まりの回復機能が無効となっている場合、HP PostScript-Plus Level 2 カートリッジの付いた HP LaserJet III および HP LaserJet IIISi では発生しません。）

6.10 プリンタ名の出力に関する問題

各国語対応文字が PostScript "printername" で使用されている場合、セパレータ・ページの下部に出力されるプリンタ名が間違った文字セットで出力される可能性があります。

6.11 DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services を必要とする DDIF 出力

DDIF エンコード 2 値イメージを出力するには、DCPS は DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services (DAS) がシステムにインストールされていることを必要とします。DAS は OpenVMS VAX システムだけで使用可能です。

6.12 NUMBER_UP および PostScript ドライバの互換性

ユーザ・アプリケーションで LaserWriter 8.0 または 8.1.1 ドライバ、あるいは Adobe 2.1.1 Windows ドライバを使用して作成された PostScript ファイルは、1 より大きな NUMBER_UP が指定された場合に正しく出力されません。

この場合、ページが抜けたり、NUMBER_UP ページ位置とは異なる位置に出力されたり、間違った拡大縮小率で出力されるという現象が発生します。

6.13 PAGE_SIZE パラメータを無視する LIST トランスレータ

LIST トランスレータは、ページのフォーマットの際に PAGE_SIZE パラメータを無視します。この場合、LIST トランスレータは A (レター用紙) および A4 用紙に適合する最大サイズのページを作成します。

ポートレートの場合: 80 カラム, 70 行

ランドスケープの場合: 150 カラム, 66 行

PAGE_SIZE および SHEET_SIZE パラメータの両方を指定して、論理ページを拡大縮小して異なるサイズの用紙に出力することが可能です。

6.14 挿入された PJI コマンドの無視、バイナリ・モードは避けるべきこと

DEClaser 5100 および HP LaserJet IV ファミリーなどの PJI プリンタ用のファイルを作成するドライバは、HP Printer Job Language (PJI) 内にプリンタ制御コマンドを含んでいます。DCPS はそのデータを検出して無視します。このため、そのようなドライバによって選択されたプリンタ・オプションはプリンタ・ジョブに影響を与えません。

これらのドライバを使用する場合は、バイナリ・モードを選択してはなりません。バイナリ・モードでは、DCPS を経由して出力する場合に不正な動作を引き起こす可能性のあるコマンドをファイルに追加するからです。DCPS トランスレータを経由してジョブが渡されたかどうかに関わらず、出力フォームはキューに実際に接続されているプリンタに依存しています。

6.15 接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP /QUEUE /RESET の使用回避

ジョブが "Starting" 状態であり、プリンタが接続を拒否している場合 (たとえば、その PrintServer の電源が落ちている、あるいはブート中である場合) に、弊社の PrintServer プリンタのキューに対して STOP /QUEUE /RESET コマンドを実行すると、そのキューは停止します。さらに、そのシンビオント・プロセスが停止する可

6.15 接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP /QUEUE /RESET の使用回避

可能性があります。PrintServer プリンタが使用可能となるまで、このコマンドを実行することは避けてください。ジョブが "Starting" 状態であり、PrintServer プリンタのジョブ・キューに登録されている場合、STOP /QUEUE /RESET コマンドは正しく実行されます。

6.16 DELETE /ENTRY でのジョブのトレーラ・ページの出力

プリンタでジョブのトレーラ・ページ出力中に DELETE /ENTRY コマンドを実行した場合、このページの出力を削除することは可能です。また、ファイルのすべてのデータを転送して PrintServer プリンタにジョブを出力している場合であっても、そのジョブに対する DELETE /ENTRY コマンドを実行して、そのジョブのトレーラ・ページが出力されないようにすることは可能です。

6.17 /COPIES を指定した出力時の PostScript ファイルの問題

PostScript ファイルに /COPIES 修飾子を指定した場合、DCPS は各ファイルの前後に PostScript の "save" および "restore" を追加して、プリンタ内の仮想メモリの消費を避けるようにします。

ただし、まれに不正な restore エラー・メッセージを表示してプリント・ジョブが中断する場合があります。この現象が発生した場合は、/COPIES ではなく /JOB_COUNT 修飾子を使用してください。

6.18 /JOB_COUNT を指定した場合の PAGE_LIMIT 使用の問題

/JOB_COUNT 修飾子を指定した場合に PAGE_LIMIT パラメータを使用すると、期待していない出力となる可能性があります。特に、ジョブの最初の何ページかを出力しないように指定した場合、DCPS は最初のコピーについては指定されたページを出力しませんが、以降のコピーについてはすべてのページを出力してしまいます。ジョブの最後の何ページかを出力しないように指定した場合、DCPS は最初のコピーについては指定されたページを出力しませんが、以降のコピーについては指定を無視して出力してしまいます。

いくつかのページを出力しないで複数のコピーを必要とする場合は、/JOB_COUNT 修飾子を使用するのではなく、必要な回数だけ PRINT コマンドを実行するようにしてください。

6.19 I/O バッファ設定が小さすぎる場合の OPCOM エラー発生の可能性

SYSGEN パラメータの MAXBUF で設定された I/O バッファのサイズが小さすぎる場合、プリンタ・キューが停止し、OPCOM に次のメッセージが表示されます。

```
%SYSTEM-E-EXQUOTA, process quota exceeded
```

このエラーが発生した場合は、SYSGEN パラメータの MAXBUF の値を増やしてください。

DCPS に影響を与えるその他の制限事項

この章では、日本語 DECprint Supervisor に影響を与えることが確認されているその他の問題、ならびにその問題を処理する必須パッチ・キット (ECO) についての情報を提供します。その他のバージョン用のパッチ・キットが提供されている場合もありますが、ここでは、サポートされるバージョンの OpenVMS のパッチ・キットを示します。

必須パッチ・キットは、次のいずれかの方法で入手することが可能です。

- 弊社のカスタマ・サポート・センターに問い合わせて入手する。

注意

この章には、日本語 DCPS ではサポートしていない OS バージョンについての情報も含まれています。

7.1 時刻変更後の DCPS プロセスによる CPU 時間の消費

特定の状況において、DCPS シンビオント・プロセスが CPU 時間を過剰に消費する場合があります。たとえば、標準時の夏時間調整のために時刻を進めた場合に、DCPS などのマルチスレッド・プロセスは急な CPU ループに入ります。この問題はプロセスを停止させ、再起動することにより解決できます。

下記のパッチを適用することで、次回の夏時間調整時に同じ問題が発生するのを回避できます。

- VMS732_TDF-V0200, for OpenVMS Alpha V7.3-2 systems
- VMS73_TDF-V0500, for OpenVMS Alpha V7.3-1 systems
- VMS73_TDF-V0100, for OpenVMS Alpha V7.3 systems

時間の同期に DTSS を使用する場合は、以下の DECnet のパッチも適用しておく必要があります。

- AXP_DNVOSIECO01-V732, for OpenVMS Alpha V7.3-2 systems
- AXP_DNVOSIECO03-V731, for OpenVMS Alpha V7.3-1 systems

- AXP_DNVOSIECO04-V73, for OpenVMS Alpha V7.3 systems
- VAX_DNVOSIECO04-V73, for OpenVMS VAX V7.3 systems

7.2 キューの起動による無効なデバイス名のエラー

注意

日本語 DCPS では、この制限事項の対象となる OS バージョンはサポートしていません。

Raw TCP プロトコルを使用する自動起動 DCPS キューを初期化して起動する場合、キュー・マネージャが "invalid device name" エラーで処理に失敗する場合があります。

```
%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on LATEST
%QMAN-I-QUENOTSTART, queue TEST4 could not be started on node LATEST

%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on LATEST
-QMAN-I-QUEAUT00FF, queue TEST4 is now autostart inactive

%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on LATEST
-SYSTEM-F-IVDEVNAM, invalid device name
```

この問題は下記のパッチ・キットで解決できます。

- VMS731_QMAN-V0100 (OpenVMS Alpha V7.3-1 システム用)

7.3 マルチストリーム・シンビオントでのキュー起動の問題

注意

日本語 DCPS では、この制限事項の対象となる OS バージョンはサポートしていません。

マルチストリーム・プロセスとして日本語 DECprint Supervisor を起動している場合は、Queue Manager 必須アップデートを必ずインストールしなければなりません。

Queue Manager 必須アップデート・キットは次のとおりです。

- ALPQMAN03_062, OpenVMS Alpha V6.2 システム用
- VAXQMAN05_062, OpenVMS VAX V6.2 システム用
- VAXQMAN03_070, OpenVMS VAX V5.5-2 システム用

上記のアップデートは、マルチストリーム・シンビオントを起動している特定の環境下で START /QUEUE コマンドがハングするという問題を解消します。キットで提供されているリリース・ノートには、このアップデートによって解消されるすべての問題について記述しています。このアップデートをインストールした後は、システムをリブートして変更を有効にする必要があります。

このアップデートをインストールしていないシステムでは、マルチストリーム・プロセスで実行しているキューを STOP /QUEUE /RESET で停止した後、直ちに START /QUEUE で起動すると、ハングする可能性があります。さらに、次のメッセージが OPCOM に書き込まれることがあります。

```
%DCPS-F-STREAMUSE, Request 4 for Stream Id n ignored.  
Not consistent with symbiont state
```

ハング状態から回復するには、Ctrl/Y を押して DCL プロンプト表示に戻り、続いて再度 STOP /QUEUE /RESET を実行し、数秒待ってから再度キューを起動するようにします。この問題を回避するには、Queue Manager アップデートをインストールしてください。

7.4 シリアル接続プリンタの I/O エラー

注意

日本語 DCPS では、この制限事項の対象となる OS バージョンはサポートしていません。

OpenVMS ターミナル・ドライバに問題があり、OpenVMS システムのシリアル・ポートに接続したプリンタが I/O エラーを通知する場合があります。この問題は、使用しているシリアル・ポートの種類に依存していますが、OpenVMS Alpha V6.2 ~ V7.0 および OpenVMS VAX V5.5 ~ V7.0 で発生します。

問題は、プリンタのデータ消失防止用の XOFF 要求に対して、ターミナル・ドライバの応答が遅くなる場合があることです。この問題は OpenVMS Alpha V7.1 で解消されました。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPOPDR04_062, OpenVMS Alpha V6.2 システム用

7.5 アクセス違反あるいは不正パラメータ・エラーによるシンビオントの強制終了

注意

日本語 DCPS では、この制限事項の対象となる OS バージョンはサポートしていません。

DCPS シンビオントは、CMA (DECthreads) 機能に問題があることを示していると思われる ACCVIO あるいは BADPARAM エラーが発生して、フェールする可能性があります。TCP/IP Services for OpenVMS や DECthreads 機能をベースにしたその他レイヤード製品など、システム上のその他のソフトウェアもフェールする可能性があります。

この問題は、デルタ時間が 10,000 日よりも短いという長年の OpenVMS の制限に関連しています。特に、UNIX 基準時間として 1970 年 1 月 1 日を使用している POSIX 関連のソフトウェアは、この制限に遭遇する可能性があります。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPLIBR07_070, OpenVMS Alpha V6.2 システム用
- VAXLIBR06_070, OpenVMS VAX V5.5-2 および V6.2 システム用

Raw TCP/IP ポート番号

raw TCP/IP プロトコルを使用して DCPS キューを設定する場合は、使用している NIC (ネットワーク・インタフェース・カード)、プリント・サーバ、ターミナル・サーバのいずれかのドキュメントを参照して、その raw TCP/IP ポートの番号を決定してください。

表 A-1 に、一般的に使用されるデバイスのポート番号を示します。

表 A-1 raw TCP/IP ポート番号

20nn	DECserver ターミナル・サーバ ("nn"は物理ポート番号)
2501	DIGITAL LN17ps および DIGITAL Laser Printer LN17+ps Emulex NIC
3001	DIGITAL Laser Printer LN15 および LN15+ DIGITAL RapidPrint 500 プリント・サーバ
6869	Compaq Laser Printer LNC02 DIGITAL Laser Printer LN20, LN40, LNC02
9100	Compaq Laser Printer LN16, LN32, LNM40 GENICOM Intelliprint mL, LN および microLaser プリンタ GENICOM RapidPrint MPS1000 プリント・サーバ HP Color LaserJet プリンタ HP LaserJet プリンタ IBM InfoPrint プリンタ Ricoh Aficio プリンタ Lexmark C, Optra S, Optra T, T および W シリーズ・プリンタ Tektronix Phaser プリンタ Xerox DocuPrint N プリンタ Xerox Phaser プリンタ Xerox WorkCentre Pro プリンタ HP JetDirect, Lexmark および XCD プリント・サーバ OKI MICROLINE, COREFIDO RICOH IPSiO
9101	HP 9085 MFP

LPD キューに指定するプリンタ製品名

DCPS がサポートするプリンタの LPD キューを設定する場合、論理名DCPS\$queue_name_PRODUCT_NAMEを定義する必要があります。この論理名にはプリンタの PostScript 製品名を指定します。詳細は、『DCPS 管理ガイド』の 3.5.7 項および表 3-4 「DCPS が認識する製品名」を参照してください。

日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS
リリース・ノート

2012 年 6 月 発行

日本ヒューレット・パッカート株式会社

〒136-8711 東京都江東区大島 2 丁目 2 番 1 号

電話 (03)5628-1101 (大代表)
